



平成29年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成28年7月27日

上場取引所 東

上場会社名 攝津製油株式会社

コード番号 2611 URL <http://www.settsu-seivu.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 二ノ宮 義治

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 総務部長

(氏名) 山本 信秀

TEL 072-280-2650

四半期報告書提出予定日 平成28年8月5日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第1四半期の業績(平成28年4月1日～平成28年6月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第1四半期	2,425	3.3	59	△17.6	64	△16.1	43	△11.2
28年3月期第1四半期	2,348	1.7	72	16.0	76	15.7	48	20.4

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第1四半期	3.56	—
28年3月期第1四半期	4.00	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	円 銭	百万円	円 銭	%	円 銭
29年3月期第1四半期	6,847	—	4,204	—	61.4	344.61
28年3月期	6,771	—	4,220	—	62.3	345.95

(参考)自己資本 29年3月期第1四半期 4,204百万円 28年3月期 4,220百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	0.00	—	4.00	4.00
29年3月期	—	—	—	—	—
29年3月期(予想)	—	0.00	—	4.00	4.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	4,900	1.5	160	5.2	160	0.4	110	7.9	9.02
通期	10,100	3.5	400	19.1	410	17.4	280	15.8	22.95

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	29年3月期1Q	12,222,080 株	28年3月期	12,222,080 株
② 期末自己株式数	29年3月期1Q	21,040 株	28年3月期	21,040 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	29年3月期1Q	12,201,040 株	28年3月期1Q	12,202,482 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、四半期財務諸表に対する四半期レビュー手続は終了していません。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料P.3「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	3
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	3
(3) 追加情報	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第1四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(セグメント情報等)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、雇用統計など一部の経済指標が改善を示すものの、国民総生産（GNP）の主要要素である民間消費は、景気回復を実感できないなかで生活防衛意識が高まりつつあり、デフレ脱却への道が未だ確固たるものになっていません。加えて、訪日観光客の購買動向にも変化の兆しが生じ始めています。日銀による金融・為替政策も、マイナス金利導入後も大きな改善の兆候がみられず、加えて、世界各国の金融・為替政策との協調性も求められる中、次第に金融・為替政策の限界がみえ始めています。

また、世界情勢をみましても、イギリスのEU離脱後の状況やアメリカ次期大統領選挙の結果などの世界経済に与える影響が見通せないなど、先行きの不透明さが増してきています。

こうした経済環境のなかで当社は、「安定的に、売上高100億円以上、営業利益4億円以上を確保できる企業体を確固たるものにする」という中期経営目標を達成すべく、油脂事業および化成品事業の事業展開力の強化と、受託事業を含めた事業相互間でバランス良く相乗効果を発揮できる体制の強化を目指した取り組みを展開しております。

その結果、当第1四半期累計期間における業績は、売上高は、化成品事業での売上高が増加したことから、24億25百万円（前年同期比3.3%増）となりました。

しかし、利益面では、原価低減に努めたものの、税制改正などにかかわる経費が増加したことなどから、営業利益は59百万円（前年同期比17.6%減）、経常利益は64百万円（前年同期比16.1%減）、四半期純利益は43百万円（前年同期比11.2%減）となりました。

セグメント別の業績は次のとおりであります。

(油脂事業)

当社の油脂事業は、精製受託、業務用斗缶販売、小瓶充填・小ロット精製から構成されています。

精製受託は、当期より原料油の受入能力を増強したことから、受託量はほぼ前年水準を確保できたものの、売上高は市況価格の影響を受け、前年同期を若干下回りました。

業務用斗缶販売は、市場価格が徐々に軟調に推移し始めるなか、販売数量の確保に注力した結果、売上高は前年同期を上回りました。

小瓶充填・小ロット精製は、既存OEM品の受託が減少する一方で、新規OEM品の受託を増加させた結果、売上高は前年同期を上回りました。

以上の結果、油脂事業の売上高は10億84百万円（前年同期比1.1%減）、セグメント利益は69百万円（前年同期比4.4%増）となりました。

(化成品事業)

当社の化成品事業は、自社業務品、OEM及び業務提携先OEMから構成されています。

自社業務品は、外食産業や食品工場における衛生管理の強化に貢献すべく、中性洗剤、厨房機器用洗浄剤や除菌洗浄剤の拡販を行ってまいりました。特に、除菌剤につきましては、昨年の特許取得後、引き続き順調に販売先が拡大するとともに、販売量も増加しました。また、主力製品の一つである中性洗剤の販売量も増加し、売上高は前年同期を上回りました。

OEMは、量販店や生協向けのハウスホールド新製品が好調に推移し、また、会員販売向け製品の一部も好調に推移したことにより、売上高は前年同期を上回りました。

業務提携先OEMは、業務用関連商品が前年同期を下回ったものの、ケミカル関連商品や家庭用関連商品が順調に推移し前年同期を上回りました。

以上の結果、化成品事業の売上高は12億62百万円（前年同期比7.6%増）、セグメント利益は1億68百万円（前年同期比6.6%増）となりました。

(その他)

その他については、物流事業における流通加工業務は前年同期を下回ったものの、その他が前年同期を上回りました。

以上の結果、その他の売上高は78百万円（前年同期比0.7%増）、セグメント利益は23百万円（前年同期比7.0%減）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期会計期間末の総資産合計は、68億47百万円となり、前事業年度末に比べ76百万円増加しました。

主な内容は、流動資産につきましては、売掛金が減少したものの、棚卸資産及び短期貸付金の増加などにより55百万円増加し、固定資産につきましては、投資有価証券が減少したものの、建設仮勘定の増加などにより20百万円増加したことによるものであります。

負債合計につきましては、26億43百万円となり、前事業年度末に比べ未払法人税等が減少したものの、未払金及び買掛金等の増加により92百万円の増加となりました。

純資産合計につきましては、42億4百万円となり、前事業年度末に比べその他有価証券評価差額金が減少し、16百万円の減少となりました。

以上の結果、自己資本比率は、61.4%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の業績予想につきましては、「平成28年3月期 決算短信(非連結)」(平成28年4月28日発表)において公表いたしました当初の計画を変更しておりません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

(3) 追加情報

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を当第1四半期会計期間から適用しております。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (平成28年3月31日)	当第1四半期会計期間 (平成28年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32	32
受取手形及び売掛金	2,581	2,513
有価証券	0	0
商品及び製品	215	285
原材料及び貯蔵品	119	120
短期貸付金	509	555
その他	59	66
流動資産合計	3,519	3,574
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	673	660
機械及び装置（純額）	223	212
土地	1,919	1,919
その他（純額）	165	217
有形固定資産合計	2,980	3,010
無形固定資産	10	9
投資その他の資産	260	252
固定資産合計	3,252	3,272
資産合計	6,771	6,847
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,278	1,360
未払金	583	683
未払法人税等	83	30
引当金	65	33
その他	78	68
流動負債合計	2,089	2,176
固定負債		
退職給付引当金	384	393
その他	75	72
固定負債合計	460	466
負債合計	2,550	2,643
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,299	1,299
資本剰余金	1,165	1,165
利益剰余金	1,697	1,692
自己株式	△7	△7
株主資本合計	4,154	4,149
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	66	55
評価・換算差額等合計	66	55
純資産合計	4,220	4,204
負債純資産合計	6,771	6,847

(2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年6月30日)	当第1四半期累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)
売上高	2,348	2,425
売上原価	2,038	2,093
売上総利益	309	332
販売費及び一般管理費	237	272
営業利益	72	59
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	2	2
仕入割引	1	1
受取地代家賃	0	0
その他	0	0
営業外収益合計	4	5
営業外費用		
売上割引	0	0
その他	0	0
営業外費用合計	0	0
経常利益	76	64
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税引前四半期純利益	76	64
法人税、住民税及び事業税	30	24
法人税等調整額	△2	△3
法人税等合計	27	20
四半期純利益	48	43

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)
該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)
該当事項はありません。

(セグメント情報等)
【セグメント情報】

I 前第1四半期累計期間(自 平成27年4月1日 至 平成27年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,096	1,173	2,269	78	2,348
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,096	1,173	2,269	78	2,348
セグメント利益	66	158	224	25	250

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	224
「その他」の区分の利益	25
全社費用	△178
四半期損益計算書の営業利益	72

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

II 当第1四半期累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他	合計
	油脂事業	化成品事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	1,084	1,262	2,347	78	2,425
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—
計	1,084	1,262	2,347	78	2,425
セグメント利益	69	168	238	23	261

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれないセグメントであり、物流業務を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容（差異調整に関する事項）

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	238
「その他」の区分の利益	23
全社費用	△202
四半期損益計算書の営業利益	59

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。